



江戸の灯りで過ごす
燈明皿のキャンドルナイト
2008.6.21-7.7

2003年からはじまった“100万人のキャンドルナイト”。

夏至の夜、8時～10時の2時間みんなで電気をいっせいに消して、
自然の灯りの中で、それぞれ思い思いの時間を過ごすイベントです。

2008年の夏至は6月21日。今年も、日本の各地でキャンドルイベントが開催されます。

鎌倉ユネスコ協会は今年から“100万人のキャンドルナイト”に参加します。

わたしたちはローソクにかわって燈明皿－とうみょうざら－のキャンドルナイトを行います。

ゆるる小さな“江戸の灯り”にあたたかい平和な地球に想いをはせて、

和製キャンドルナイトを過ごしませんか？



🔥 燈明皿 -とうみょうざら- とは

江戸時代、ローソクが一般的につかわれる前に、

和キャンドルとしてつかわれていたのが“燈明皿の灯”。

お皿に菜種油を入れて、木綿の灯芯に油を吸わせ火を灯すものです。

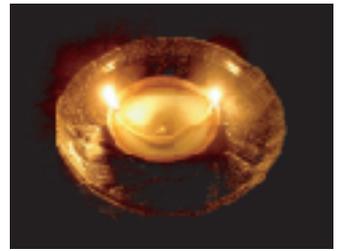
身近にある小さめのお皿も燈明皿になります。

油は食用油の廃油を、灯芯は古い木綿の布をつかえば、簡単エコな和キャンドルになります。

ミョウバン水で灯芯を煮て乾かすとより明るく、

また、受け皿を大きめにしても、灯火が水に映ってより明るくなるそうです。

灯芯は二つでも、数本でも明かりの輪になってもいいでしょう。



🔥 燈明の炊き方

用意するもの



ガラス皿
(受け皿用)



小皿
(食用油、灯芯用)



木綿布
(灯芯)



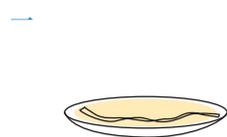
食用油
(廃油で良い)



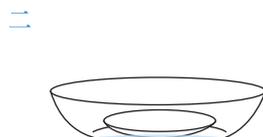
マッチ、ライター



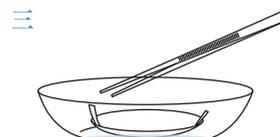
ピンセット



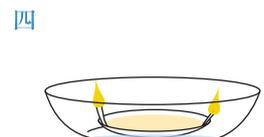
木綿の布を1cmぐらいの幅にさいて、食用油にひたしておきます。



ガラス皿に水を1cm程の高さまで入れ、小皿を中央に。



油にひたした灯芯をピンセットでつまみ小皿に移し、両端を小皿から出すようにします。



灯芯の両端に火をつけ、小皿に食用油を注ぎます。油30mlで2~3時間火が灯ります。

キャンドルナイトが終わったらピンセットで灯芯を取り出し、水にひたして火をしっかりと消します。(火の扱いには十分に注意いたしましょう)